

第 55 回滋賀県立美術館協議会 結果概要

1 開催日時：令和 7 年(2025 年)2 月 27 日（木）15:00～17:20

2 開催場所：滋賀県立美術館 ワークショップルーム

3 出席者

滋賀県立美術館協議会 14 名中 14 名参加

石川委員、伊庭委員、上野委員、蔵屋委員、後藤委員、西藤委員、菅谷委員、
岨中委員、田中委員、馬場委員、前崎委員、光島委員、山下委員、山本委員
事務局

保坂ディレクター（館長）、木村副館長、山田学芸課長、西垣総務課長、
辻滋賀県文化芸術振興課美の魅力発信推進室長、他学芸員 6 名、職員 5 名

4 会議次第

- ・あいさつ 滋賀県立美術館 保坂ディレクター
- ・委員自己紹介等
- ・議題

（1）会長、副会長の選出について

（2）報告事項

①令和 6 年度事業実施状況について

②令和 6 年度における滋賀県立美術館整備基本計画の検討状況について

（3）協議事項

①令和 7 年度の主な事業予定について

5 概要

（1）会長、副会長の選出について

（事務局）

議題 1 「会長・副会長の選任について」

委員から会長に前期会長の蔵屋委員を推す発言があり、委員一同賛同

蔵屋委員から副会長に前崎委員の指名があり、委員一同賛同

今期も引き続き、蔵屋委員に会長を、前崎委員に副会長をお願いすることに決定

（2）報告事項

①令和 6 年度事業実施状況について

（事務局より説明）

（会長）

ここまでの事務局の説明について、何かご意見・ご質問等ございましたらご発言をお願いします。

(委員)

32 ページの先ほどご説明のありましたナイトミュージアムですけれども、前回の協議会の時にこの夜の開館というのは延長したらどうだという意見が出ておりまして、新聞紙上で関西で統一して連携してやられるということで非常にいい取り組みだなと拝見しておりました。ここは周知徹底がもう少し必要であると思いますが、夜間開館は若干コストはかかると思うんですけれども、いろいろ企画をしながら、ぜひともよろしくお願いします。

(会長)

美術館で江州音頭、楽しそうですね。

(順序を変え)

(3) 協議事項

①令和7年度の主な事業予定について

(事務局より説明)

(会長)

ただいまの事務局の説明について、ご意見ご質問等がございましたら、ご発言をお願いいたします。

(委員)

収集の予算に関してお話ししたいと思います。今年度は寄附金が500万円あって、そこに足されて700万、800万くらいの予算にされていて、来年度はまた減額されてしまっています。寄附金が無くなり予算が少なくなってしまうということで、通常の予算が250万、ここをぜひもっと増額をしていただけるようお願いしたいと思います。やはりこちらの美術館は現代美術とかアール・ブリュットとか現在進行形の美術を収集されることを考えていらっしゃると思うので、そういう作品というのは特に現代美術は価格が高騰しているということもありますし、あるいはアーティストの収入を減らしてはいけないと思いますので、しっかり予算確保をして買うべきタイミングの時に、作品を買っていただけるように予算を確保していただければと思います。そして、もう一つ収集方針の中で多様性を確認できるような作品というのを挙げていらっしゃると思います。最近に設けられた収集方針だと思います。これはおそらく日本では多くの美術館で設けておられる方針ではないと思うので、ぜひこの方針をアピールしてください。確か今年度の収集作品にもこれに該当する作品を購入されたと伺っておりますので、ぜひこういう新しい分野の作品というのも増やして、アピールしていただきたいと思います。

(委員)

広報について伺いたいんですけれども、いろいろされているということですが、最近はSNSとかネット上の広報が多いと思うんですが、このSNS関係ではどのように対応されるかということを教えていただければと思います。

(事務局)

現在、当館のXとInstagramを運用しております。より機動的に展開していきたいというところもございまして、今、試行的にですけれども、開催中のBUTSUDORI展に撮影コーナーがございまし

て、そちらでハッシュタグをつけて SNS に投稿していただきますとノベルティをお渡しするということをやっております。SNS を通じてより多くの方に情報を届けられるように取り組んでまいりたいと思っております。

(委員)

ありがとうございます。もしフォロワー数などが分かりましたら教えてください。後ほどで結構です。

(委員)

9 ページの社会的処方取り組みのところで、カームダウン・クールダウンスペースの設置を令和 7 年度からスタートすることが報告されましたが、令和 6 年度の 8 月 25 日の時の利用状況を教えていただきたいなと思います。利用状況が少ないからといって無くてよいということではなく、絶対あったほうがいいと思うんですが、教えてほしいです。

(事務局)

7 名の利用者がいたかなと思います。というのは、中を確認するということはしておらず、中にあった耳栓が 7 つ減っていたということで、おそらく使用されたのではないかと。受付・監視の方にお聞きしましたら、何人かは入られたような様子だったということです。

(事務局)

補足しますと、いらっしゃる前に「休める場所があったら落ち着いて行けるから、そういう場所がありますか」とお問い合わせがあったりします。その時には館のバックヤードにある休憩室がありますよとご案内しているので、一定のニーズはあると思っています。

(事務局)

先ほどお尋ねいただいた SNS のフォロワー数ですけれども、X につきましては 9,049、Instagram が 6,562 という状況でございます。

(委員)

ありがとうございます。

(委員)

社会的処方ということに近いんですけれども、確か前年度の協議会でも、子育て世代の委員の方から作品鑑賞中に子どもを預けられないかと提案があったと思います。取り組みを毎週やるのは難しいかなと思うんですけれども、全くその辺の話は出てなかったなので、どう検討されているかを教えていただけるとありがたいなと思います。

(事務局)

他館ですと曜日を決めて、この日に、この曜日にベビーカーでぜひ来てください、みたいなフリーデーを設定している場合があるんですけれども、当館の場合はチラシの裏に書かせていただいているんですが、いつでも来てくださいと。ベビーカーを押して来ていただいてもいいし館内で喋っていただいても全然構いませんということを申し上げています。ちょっと他の館とスタイルは違うんですけれども、明らかに土日を含めてベビーカー利用のユーザーは多いです。

【補注】昨年度から託児の試行を行っており、今年度は 5 日の日程を設けたうち、事前に申し込みのあった 3 日について実施し、利用者は計 9 人(6 家族)、利用者アンケートでは「久しぶりにゆっくり鑑賞できました」等のお声をいただいております。来年度も引き続き、展覧会関連イベント等に合わせて実施するなど試行を継続する予定です。

(会長)

ここで 16 時 10 分ということで委員の退席時間を考えまして、先に次の議題に進めさせていただいてよろしいでしょうか。

令和 6 年度滋賀県立美術館整備基本計画検討状況報告についてです。

資料を事前にお配りしておりますので、お目通しをいただいたという前提で、ご意見を伺いたいと思います。

(委員)

16 時 20 分に失礼しますので申し訳ございません。資料に目を通させていただいて、文化公園という非常に素晴らしい環境にはあるんですけども、どうしても市の中心からは離れているというのが大きなデメリットではないかと思います。本当に「美術館でこの作品を観たい」という方しか、おそらくこちらには足を運んでいただけないのが一番のネックになっているんじゃないかなと。資料の中にありましたように北駐車場からのルートとか、東駐車場からのルートとか、いろいろ検討いただいていると思うんですけども、本来でしたら例えば京都市美術館だったら大きな通りの前にあったりとかですね、ぱっと見たらこれが美術館だということが分かるんですけども、この場所はなかなかどこに美術館があるのか公園を見ても分からないと。だからもう少しアクセスとかルートとかを分かりやすいというか、高齢の方そして障害者の方も含めてですね、足を運びやすいように。来てしまったら皆さん非常にアンケートを見ても満足して帰っていただけるということだと思いますので、その辺をもう少し工夫をして、ご検討をいただきたいなど。まあバスの本数とか、そのようなことも書いていらっしゃいましたけれども、そこも含めてですね、まずはここへいかにして来ていただくか、来ていただいいていかに短いルートで辿り着くかということをご検討いただけたらと思います。

(委員ご退席)

(2) 報告事項

②令和 6 年度における滋賀県立美術館整備基本計画の検討状況について

(事務局より説明)

(会長)

この議題に関しましては、今の段階で委員の皆様ぜひ積極的にご意見をたまわりたいと事務局からも希望を伺っております。特に今後、計画が進みますと決定事項も多くなってまいりますので、早い段階である今のうちに、皆様のお立場からご意見をいただきたいと思います。ただし、我々 14 人いますから、ひとり 1 分話しても 14 分かかってしまいますので、完結におひとり 1 分を目途にお話を伺いたいと思います。それでは先ほどの自己紹介とは逆回りをお願いいたします。

(委員)

整備計画で増築するということですが、確かにギャラリーのスペースは少ないですとか、展示スペースが少ないというのはあると思うんですけども、今美術館の建っている位置からすると、増築すると不格好な建物になるなという感じがします。建築可能範囲から外れてますが、公園内の六角広場、この場所、今死んでますよね。確か廃墟みたいになっているのですが、ここに別館みたいな形で、例えば美術館の中で展示できない虫食いの木やびわ湖のごみを集めて造形した現代造形みたいなものが展示できないか、美術館の中では無理だけれども、そういったものを含めて展示できるようなスペース、もしくは若い作家さんのモノを作りながらお客さんに見せる作業スペースをつくるなど、建物と別の場所に分けて考えてはどうかと私は思っています。

（委員）

なんといっても入り口を検討していただきたいです。滋賀の家展、夏に来たのですが、たどり着くまで死にそうになるくらい暑い。距離がある・ないとかより危険だなと思うくらい暑さがあるということで、北側ルートが実現できるのであれば、かなりありがたいと思いますし、気持ち的にも、まだ歩行の時間が減っていいと思います。ぜひとも、5分以内くらいで建物の中に入らせてほしいと思いました。あとは入り口に入ってすぐのところがもともと石造りで、冷たいというか重厚な感じですけども、ワークショップルームやキッズスペースに向かうところは、全体的な装飾というか壁画的なものをつくるなど、思い切ったイメージ戦略として変えてしまうというくらいになっていいんじゃないかと思います。近くて入り口が晴れやかになれば、ずいぶん美術館のイメージは変わるんじゃないかなと思います。バス停も心地よいものにしていきたいです。

（委員）

確かに遠いです。今日は急いでいたのでタクシーに乗せてもらいましたが、入口までタクシーで走っていても距離があるなと思いました。僕の方からはチラシを2種類配らせてください。設備や構造面での意見は提示できません。なぜかというとな美術館やそれをとりまく公園の全体の構造がいまだにわかっていないからです。それで、ソフト面から考えていくヒントとして、ここにチラシを2枚お配りします。ひとつは点字が入った、図も盛り上がって渋谷のチラシがありますけど、こういう盛り上がって印刷された地図とか、そういうものが最近作りやすくなってきています。以前は立体コピーと言ってましたけど、最近もう少し簡易なよいものができて、EasyTactixという、原稿や図があればそれを触図として盛り上げてプリントするようなプリンタが割と安価に、どれくらいかな50万くらいですかね。それを使うと今言っておられる動線がどうなっているのかというのを盛り上げて印刷することができる。そういうので示してもらったりするとわかりやすいし、実際に展覧会場がこういうふうになっているとか、入り口からこういうふうになっているとかいうような図面が触図であると、見えない人、見えにくい人にも、ここは一体どこにいるんだろうではなくて、全体の中でここにいるというのがはっきりわかってくると親しみを持ちやすいかなと思います。そういうソフト面での充実をお願いしたい。それから先ほどの報告にもあるように、対話鑑賞も力を入れておられるので、今度3月にうちのアトリエでやる対話鑑賞では、見えない人がファシリテーターになって案内する、説明するというような展覧会をしています。対話鑑賞に向けての作品を作ってもらって、ある時間帯にあれば、僕も含めて5人くらいの見えない人が毎日誰かいて、その人と一緒に鑑賞できるというようなプログラムを考えているのですが、そういういろいろな対話鑑賞の試みを試していったほしいなと思います。宣伝もさせていただきましたけれど、いずれもソフト面での提案です。

（委員）

計画の方については皆さんやりたいことがたくさんあると思うので、私としてはこれだけ大きな規模でつくって大丈夫なんですかということと、北側に入口ができれば人が増えるかもしれないけれど、現状から3倍、4倍来館者数が増えて、収入が増えてということであれば、税金を使ってそういうことをするのも有りかなと思うのですが、全体的に入り口が北側になるから、それでいいですよねみたいな感じで、ここで決議を取られるのはちょっと不安です。それから、昨年かの協議会でも話したのですが、後ろが決まっていて、14人集めて、資料事前に配って、14人いたら1人数分しかしゃべれません、私たちは税金いただいてこの場にいるわけで、その私たちに喋らす気がないという進め方をされるのはすごく気分が悪いということをやまずお伝えします。もしも本当に私たちの意見を聞きたいということであれば、事前に資料配って、なんなら録画で説明して、本当に言いたいことがある人はこれを見て、事前に出してください、それについてのお答えをここでしますということであれば理解できるんですけど、そういうこともしないで、ただただ集まって1人1分ですと言われて、それから資料を説明されて何か言えというのは、それで私たちが何か説明したところで、それを聞くかどうかは皆さん次第というのはよくわかりません。協議会というのは県民の意見を聞く場所ですということを調べたら書いてあったんですけど、そういうことであれば、きちんと意見を聞く場をつくるのが美術館の責任だと思います。

（会長）

ありがとうございました。以前ご指摘があり、事務局の方でもなるべく手短かに説明をされていますが、ご意見をいただきました。

（委員）

入口のことや、石畳でなかなか車いすなどが通りにくいというのは絶対直した方がよいところだとは思いますが、ハード面はなかなかこの短い間で意見は難しいかなと思っていて、今回資料をつくるにあたって一応大学生や研究室などで外部を入れていращやる。以前開催された「みかたの多い美術展」の展示会の作り方がよい前例で、外部性をどう入れるのかということ、この美術館を魅力的につくっていく人たちをどういうふうに取り込んでいくかの仕組みの方が重要かなと思っています。協議会にそれができるのかわからないですけども、仕組みを作って、仕組みをどう活用していくのか議論ができればよいかなと思っています。今ここに滋賀県立美術館整備基本計画という美術館からの意見が出てきて、これが適切なかどうか、なかなか判断が難しい気がしています。来館者が多くなれば確かによいのかもしれないですけども、美術館が滋賀県での役割としてどういうふうにあるのか、美術館の中だけでできるものではないので、外に出ていきながら、地域の文化であったり、さまざまな人の居場所みたいなものを一緒になってつくっていくという取り組みの方が重要であって、そういうふうな人達をどう集めていくのかという。昔はハブになる、中心になっていくという考え方だったのかもしれないけれど、いろんな機関、いろんなステークホルダーを集めながら働きかけていくことが重要だと思っています。結果として、そこでステークホルダーが増えて来館者も増えていくかもしれないが、それは結果論かなと思います。私は滋賀県唯一の美術大学である成安造形大学から来ているんですけども、成安造形大学の学生に滋賀県立美術館に来たことがあるのかきいてみたら、1割、2割くらいしかいません。みんなと話しているわけではないですし、そこは我々の力不足もあるんですけども、自分事というか自分が通っている県の美術の重要な場所であるという意識は伝わっていないというか、そういうやりとり自体できていないというのが現状です。そういうやりとりの場をどう作っていくのかという議論をもっ

とできたらうれしいなと思っています。

（委員）

ワークショップルーム、キッズスペースの課題について、バス停や駐車場などに今掲示板などがあってそこに広告等があればわかりやすいのではないかと思います。インスタグラムのアカウントをされているということなんですけれども、別のアカウントでこういった活動をしているということ発信していったらいろいろな呼びかけになるのではないかと思います。小中高と滋賀県でしたが、私の時は郊外学習で美術館に来る機会はなく、琵琶湖博物館やびわ湖ホールはあったんですけれども、なかった。なかなか大学に行っても美術館って何をされているのか知る機会が少ないと感じているので、大学に1枚でもチラシなどそういったものがあれば学生も来場者も増えるのではないかと思います。

（委員）

短い時間で私の委員としての役割として、社会的処方のお話をしたいと思います。やはり出向いて行ってもらいたい、美術館から外へ出てもらいたいという思いがありまして、来ていただくためにもここへアクセスできない、または美術館というものを体験できていない子供たち、家庭の人たちに、出向いてもらって、美術はいいぞというか、体験格差ということを多く聞かれていると思いますので、そういう体験を届けていただければと思います。よろしくお願いします。

（委員）

魅力向上の部会で指摘されていたひとつですが、滋賀県庁内の庁内整備検討チーム会議の設置というのがもうすでに実現されているということで、今の皆さんの話を聞いている中で、この中に教育委員会も入れてもらったら、もっとできるのかなという気がしました。それから公園の活性化というのはこの美術館だけが担当するものではなくて、公園担当の方からこのままでいいのかという声は挙がってこないものかどうなのか疑問に思っております。具体的に言いますと、40何年前の状況とは違うと思うんですね。北側に入り口つくるとか、駐車場の赤い線のルートをつくるというのはすごくいいんですけども、現状からということではなくて、いっそのこと今の時代性を考えたら、駐車場を増築可能な場所、つまりすぐ北側にもってきちゃう。外周の地図でいうと右側の外周道路からまっすぐ美術館の下まで車で来れる、車降りたところに美術館があるというのはすごく重要だと思う。先ほど見えないという話がありましたけれども、見えるところに美術館がある、車を降りたら見えるところにあるというのはよいと思うんです。たしかに昔はこの公園の中を歩いて、ってということは公園をつくる重要な要素であったと思うんですけど、やっぱり45年、50年の間に生活のスタイルが変わっていつていますから、車から降りて歩くというのがちょっと辛い、15分20分歩くのは辛いことなので、車から美術館がすぐみえるところまで駐車場をもってくる。そのために公園をつくり替えるくらい大きなことをしないと、現状あるところでそれを工夫を加えてということではたぶん限界があるんじゃないかと思います。県をあげてということであれば、そこまでコンタクトしていただきたいと思っています。それから、あと少しだけ、既存施設の老朽化、これとても深刻なことだと思います。早急に対応していただきたい。特に展示室3の方に歩いていく途中に結露して水が溜まっているという状況は、美術館としては大変なことだと思うので、早急に対応されるべきだと思います。この間の改修の際にこういうところはされたと思ったんですけれども、展示室拡張することも重要ですが、まずこういったところを早急に対応していただきたいと思います。

(委員)

障害者用駐車スペースは美術館近くに何台かあるけれども、やはり今、障害者の方だけではなくて、ファミリーも車で来られます。この美術館は最近ネットニュースで拝見したんですけれども、家族連れで訪れてもストレスが少ない美術館だということが紹介されていました。確かにいろんな設備が整っていらっちゃって、私も子どもがいて何回か来たことがあるんですけれども、非常に使いやすい、子どもと自由に回れるスペースが多いなと思っていました。ですが、やはり車から降りて遠いのはひとつの大きなストレスで、限られたスペースではあると思うんですけれども、10台くらいでもいいので、家族連れが車から降りてすぐに美術館に入れるような駐車スペースが、建物近くにもしあれば、少しでもお客さんが来やすく

なるのかなと思いました。というのもいただいた資料で7割くらいが車でここにいらっちゃっているというがあるので、駐車場の整備は大事ななことかと思いました。

もうひとつは、私の勤める美術館でも無料で入れるスペースを広げたことで来館者が増えました。そのすべてが展覧会をご覧になっているわけではないんですけれども、写真を撮ってくださったりということで、館の存在を知らしめられたという効果はあると思います。無料のフリースペースでも作品を観られる、そういう人を引き付けるような作品を、例えば現代美術作家の方に作っていただいて、写真を撮っていただいたり、美術館がひとつの新しい居場所になるように、スペースを広げていただけたらと思いました。ハード面ばかりの話で、先ほど内部から変えていくべきだというご意見もありましたけれども、それはもちろんそういう方法があるべきだと思います。

(委員)

今までのお話を伺っていて、公園内の魅力をアップするとか、公園内のアクセスを解決するとかはこの計画でなんとかなると思うんですが、やはり県外の人間からすると公園に来るまでのアクセスが非常に遠いのが心理的なハードルです。ただし、これは美術館単独ではもうどうにもしようのないことですので、以前、経済界をあげてのサポートをお願いすることが必要なのではないかということをお伝えした記憶がございます。1970年代、80年代ちょうどこの美術館が計画された頃には、美術館、博物館というのは、静かな文教地区にあってちょっと特別な場所で、遠くてもみんながんばっていくという場所でしたが、90年代、2000年代から街の真ん中であって、みんな気軽にふらっと立ち寄れる場所というふうに役割が大きく変わりました。その中で、やはり70年代、80年代にできた美術館は、みな立地の面では非常に苦労されております。ただ、立地だけは館員の力ではもうどうにもならないということも本当です。ですので、公園内のアクセスの改善は皆さまのご意見を踏まえて、公園までのアクセスは県の力を借りてということだと思っています。物理的なアクセスの問題というのは、もうこうとしか言いようがないのですが、もうひとつ心理的なアクセスのハードルを下げるということは、美術館でも取り組める問題ではないかというふうに思いました。先ほどですね、東大津高校の1学年が全員観に来るというお話がありましたけれども、子どものときに学校で一度でも全員で観にくると、必ず何割かは大人になってからも美術館に戻ってくる、美術館に来る傾向が増えるというリサーチの結果がございます。これで金沢21世紀美術館さんが市内の小学5年生でしたか、全員観覧するということで、美術館へのハードルを下げた実例があります。滋賀県は委員のご意見にもあったように、真ん中に大きな湖があって県内のアクセスがとても大変なところかと思うのですが、それだけに全員が平等にいろいろな経験をし、そこから先は自分の好きなものとして行きたい方へ進むという道を県内どんな子にも与えられるような環境が生まれれば、物理的に遠いなということとは別に、心理的に遠いなという問題は少し軽減されるのでは

ないかと思っています。もうひとつ気になっているのが、現在の職員数です。毎回事業報告や事業計画を伺う度に、こんなに少ない人数でこれだけたくさんの事業を本当によくやっという感じがします。この会で要望を言ったり、これができてないということもとても重要なんですが、私はよくやったねと褒めることも委員の役割ではないかと思っていますので、あえてこういう言い方をさせていただきます。県からの派遣と思われる3名の方を除いても16人、私が勤める横浜美術館は約50人、この規模の違いの中でこれだけの事業をやられていて、しかも北側の出口、入口が増え人がたくさん来るようになると、この人数で、同じ予算ですべて回していただくということにも相当無理があると思います。魅力が向上し、たくさんの方が楽しめるという前提であれば、職員数見直しというのも考えられるべきなんじゃないかと思いました。長くなりましたが以上です。

（委員）

私からは大きく3点お伝えさせてもらえたらなと思います。なんせ距離がどこからもあるということで、家族で来るにしても1日仕事になるかなと思っています。それを逆手にとって、逆に1日この美術館周辺で過ごして楽しめる、そんな場所にしていただけたらいいんじゃないかなと思います。そのためにはお昼ごはんを楽しく食べられるようなスペースだとか、子どもが遊べるようなスペースであったりといったことをアートに絡めながら取り入れるのがいいんじゃないかと思っています。私は陶芸の森にもよく行っていたんですけども、滑り台みたいな大きな現代美術があって、そこでよく滑って遊んでいたのを覚えています。自然にそういったことを小さい時に体験できているというのは、大きくなったときにもすごく記憶に残っているものなんだなというのも、今お話を聞いていて思いました。それから、駐車場からの動線が悪いということなんですけれども、私は子どものころに動線の悪い道をすごく楽しんでいました。途中で池があって、おもしろいものがある、それを見ながら美術館に行くというのが、私のスタンダードだったので、それはそれですごくいいところなのかなと思っています。でも、高齢者の方も増えていますし、その方たちにも行きやすい道をつくるのは大事だと思いますので、2パターン選べるような方法ならば、どの方にも楽しんでいただけるものになるのではないかなと思います。ただ、道中の楽しみを増やすというところには改善が必要かなと思いますし、子どもも遊びながら、ちょんちょん乗って楽しめるようなものであったりとか、気軽に楽しめるようなものが道中にあると楽しみながら美術館に行って、それがまた記憶として残って、子どもにまた連れて行ってあげたいと思う大人に育つんじゃないかなと思います。もう一点が、私、美術教育研究会に所属させてもらっているんですけども、年に1回、県の美術展が子どもたちの作品が展示される機会があるんですけども、以前はこちらの会場をお借りしてさせてもらっていたと思うんですけども、今は栗東歴史民俗博物館でさせてもらっているんです。それがこちらでさせてもらったりとか、いろいろな場所でそういう機会を設けてもらうことで、必ずその子どもと親御さんが行くような必然性が生まれる機会っていうのが生まれてきて、また子どものその友だちが行きたくなるみたいなそんなつながりも生まれると、先ほども言われていましたが、子どもが小さい頃に経験する機会というのを多くつくりだしていけるんじゃないかなと、またその小学生の担任、教職員も同じく子どもの作品を見るために、美術館に足を運ぶ機会が増えるのではないかなと思います。以上です。

（委員）

1分ではなかなか難しいですが、駐車場が狭い、築山を潰したらどうかとか、何かとにかく思い切ったことをしないと、小手先のテクニックでは難しいです。40年前開館したときにはじめて来た

が、印象的だったので覚えています。この美術館むっちゃいいんやけどこの美術館いじわるなことに玄関向こう側や、と思いました。石畳が無茶苦茶やし足首捻ったの覚えてますけど、思い出深いんですけども、僕だけでなく友達も、そのまた友達も足首捻ってました。40年たってある程度改善されたんですけど、やっぱり入口問題は大きい。しばらく閉館している間に、美術館ちょっと地下の収蔵作品作るんかいなとか、展示室増やすんかいなと思ってたんですけども、入ってみたらあまり変わっていない。でも、何かやろうとしてるなという空気感があります。だから、館長さんが新しく来て、すごくなにかこう変わろうとしてるなという運営面の変化はあるんですが、建物は変わってない。ハード面は仕方がない部分もあるのかなと思ったけれど、この予定表みたらかなりがんばろうとしているので、そこで一石投じるならば、連結なり、別館というのが地下に来るのかなと、思い切った予算をとって職員さんもそうですし、思い切った改築増築していただけるなら、本当に素晴らしいなと思っています。滋賀県の規模というのは140万人いったかどうかわかりませんが、200万を切ってる県の財政の中で、美術館をつくるというのは難しいなというのが僕の感覚です。ランチルームが作れないのは、その線引きがちょうど170、180万、三重県美のランチルームが危ないとされているくらいです。いろんな美術館をみていると、県の規模が小さいところは、運営面かなり難しい選択を迫られていると思います。ランチルームがなかったらなぜ難しいかというと、やっぱり公園と一緒に生きていけない。公園が一日仕事やおっしゃられたとおり、お昼なかったら半日になりますから、やっぱり美術館に入らないで帰られます。ランチルームがあるならば、友だちは図書館でお昼を食べてまた美術館に来ている。そういうことをしているなかでの美術館運営の難しさ。10万を入場者数として目標とされているんですけども、僕はうれしかったです。現状の倍か、何を増やさないといけないかということと子供たちの子ども展をやはりここで開催しないといけないと思います。私は市町の子ども展の審査もさせていただいていますが、10万人規模の市町の子ども展はだいたい5,000人入場者が入ります。東近江市しかり、彦根市しかり、草津市しかりです。その一部でもここへ取り込むためには、子ども展をしないといけないと思っています。県立美術館に親子で、おじいちゃん、おばあちゃんも含めて来てくれるはずですから、そういう機会を増やすということで。今、京都新聞の方おられますけど、審査もさせてもらっているけれども、それもやったらよい。京都新聞主催なので京都ばかりかと思うと、京都の搬入数と滋賀の搬入数は1対1です。それほどすごい人数をやっています。イオンモールで巡回展もやられていますけれども、当然滋賀県美にそれに名乗りを上げてもらうなり、アクセスをしないといけないなと思っています。子ども展で難しいのは搬入です。先生方の力を借りて何百という先生方がどーんと来ます。搬入口の問題もご指摘のとおり、搬入は美術館の方の関係でなかなかできないことになっています。でも、中央の玄関を使って搬入搬出されている様子を一般の方が見られるのはどうかというのもあって、やっぱり動線確保、搬入動線が大事なのですが、ギャラリーの増築をするのであれば搬入動線、それも含めて北側の玄関をつくって、搬入動線にして、限られたスペースのなかに増築をして、いろんな問題を解決するのが一番よいと思うのですが、予算がないやんかということになるので、先行例として、成功しているような美術館、特に公園とセットになった美術館に連絡をとって、うまくやって予算をとる方法が一番かなと思います。子どもにとって美術館に飾ってもらったというのはクラスで自慢です。地域のホールで展示されましたというよりも県立美術館で展示したら、おじいちゃん、おばあちゃん、お母さん、お父さんが一緒に来ますよ。はじめて美術館に来て、こういう美術館あるんやっていうのをわかってくれると思いますので。中学校の美術展はやっていますけど。市町はバスを出してくれるんですよ。県の部活動でもバスを出しますから、そういう形でどんどん来てくれるんですが、バスを停めるところがないから、バスの駐車場があるとよい。駐車場はすごく大事だと思います。ギャラリーの増設、搬入の動線あたりのことも十分考え

て大きな改革ができるように作戦を練ってほしいと思います。以上です。

（委員）

今いろいろな意見出ましたけれども、やはり子ども取り込むのは大事なことでと思います。先ほど小学校のところに強制的にでも美術館の門をくぐったら、心理的抵抗がなくなるというお話がありましたけれども、私も昨年、滋賀県では小学校5年生みんな「うみのこ」という船に乗って琵琶湖に出て琵琶湖の学習をするんですけれども、そういうことを美術の分野でもできたら心理的抵抗がなくなるんじゃないかと申し上げました。そのことを改めて申し上げます。あとですね、この館の中だけで考えるのではなくて、実際に館の外に出ていくことも大事だと思っています。特に子どもを対象にしたことをいろいろやっているというお話でしたけれども、逆にこちらの学芸員の方が地域、学校に出て行って同じようなことをしてはどうかと思います。その際に、資料には収蔵庫が足りないということが大変深刻な問題として挙がっていますけれども、ここで所蔵しきれない分を例えば、学校に預かってもらうというのはどうかなと思います。学校にそういう作品があれば、それを教材にして授業等で学んでもらうということが出来るんじゃないか。希望される学校を募って手を挙げてもらって預ける、何年か経ったらまた別のものを預けるとかいろいろやり方があると思いますけれども、そんなこともひとつ可能になればよいなと思います。

（会長）

予定では17時までですけれども、これだけご意見をいただきましたので、事務局の方から、あるいは委員同士でこういうことを聞いてみたいというご議論があれば、延長してお話を伺ってみたいと思いますがいかがでしょうか。大丈夫でしょうか。

（閉館の音楽が大きな音で流れているため、会議中断）

（事務局）

こういう音量が変えられないくらい設備が古いというか、いろいろとある中で運営しているというのが現状でございます。そういったところの改善も含めて整備基本計画を進めているところですが、何人かの委員にご指摘いただいたとおり、ハードのところだけでなくソフト面の検討も必要であるというご意見もいただきました。特にこれについては、ハードよりも先行して前倒してできていくこともあろうかと思っています。委員から言われた施設の状況を触図等で示していくこと、これ建物の入り口にはかなり前に整備したものがあるとは思いますが、広島他各館にある会場で図面を確認できるような取り組みというのは確かに必要になると思います。ご指摘のあった、委員の皆様に対する説明ですけれども、思えば私も他の委員会でも事前にレクを受けることがございます。正直それは皆様のお時間を取ることになるので、この場で少し説明させていただいたんですけれども、委員が言われたように、動画でもいいじゃないかというところで、そう思えば説明だけ動画で撮影したものを皆さんの好きな時間に見ていただく、無理な場合はご説明に上がるなりなんなりして、なるべくこの協議会の時間については皆さんのご意見を聞く場に変えていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

（会長）

事務局ありがとうございました。委員の皆様からも事務局に対してご質問、委員同士のご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

（委員）

うみの子、ホールの子ありますよね、アートの子つくったらどうですか。予算取りでうまいこといくと県の教育委員会の方からの予算で教育委員会の者が出向している美術館は全国にたくさんあると思います。規模が大きいところが多いんですけども、私の知っている人でも新潟県美3人くらいいるんじゃないですか。そうして子どもを寄せる、もちろんそういう人たちも含めてやはりトークもされますし、子ども向けの取り組みも全面的に押し出すということで、人も金も集まる、その方法を積極的に変えていかれてはどうでしょうか。子どもたちが県立美術館に行くと言ったら当然市町はバスを出しますしね。駐車スペースはなんとかしなければいけませんけれども。そういうような形でよい取り組みをして、子どもたちを呼び込めている美術館になればと思います。ハード面は難しいですけども、頑張してほしいなと思います。

（委員）

先ほど褒めることも我々の仕事だとおっしゃられたのですが、滋賀の展覧会のつくり、造作がおもしろいと思っていて、特に滋賀の家、アール・ブリュットの展示とかが、チャレンジングな展示の仕方をされているなと思っています。これはやっぱり、展示室がうまく使いづらいというような、今のものにはなかなか合わないようなつくりであるがゆえにそうなったのかもしれないんですが、起用されているデザイナーの方々も含めてすごく新しいものの見え方がする展示をされているなと思うので、そこは思い切って、そっちで有名な美術館というような、展示の仕方がむちゃくちゃおもしろいんだ、ありきたりの作品を展示することではなくて、空間として、モノの見え方見せ方ということに関して滋賀はやっぱり一味ちがうなというような感じの売り方、アプローチの仕方、広報の仕方があるのかなと思って、そこはすごく期待しているところがあります。よろしくお願いします。

（会長）

先ほど僭越なことを申しましたが、この場には若い学芸員さんもたくさんいらしてます。皆さんからのお褒めの言葉で明日以降やる気が増していきますので、皆さんどうぞ積極的に褒めることもお願いいたします。今、整備計画の話を離れて、全体についてのご感想のような話も山下委員からいただきましたが、そろそろ終盤ですので、整備計画に限らず全体についてでもご質問ご意見等ありましたら。

（委員）

意欲的な展覧会が多いのはそのとおりだと思います。僕も昨年度にラボで開催した滋賀県立美術館の40周年記念のアーカイブ展に関わらせていただいたんですけども、美術館の中の方々とお話ししたりとかやりとりする中で、やっぱり大変な重労働というか業務が多重になっているのではなかろうかという気がしております。僕も先ほどソフト面でいろいろとやれたらいいんじゃないかという話をしたんですけども、そこは人員が必要になってくるということになるので、なかなか理想と現実というのは難しい問題があるのかなと感じております。40周年のアーカイブ展示も依頼が来たのも遅かったし、やりとりのスピード感なんかもどうしても仕事が滞ってるんじゃないかと感じたりとか、滋賀の家展の図録が遅くなったというのも、そういうのが影響されているんじゃないかなと思っております。ここで学芸の方々の率直な意見みたいなものをお伺いしたいです。アイデアや体力で乗り切っておられる方々がたくさんいるのではないかなと思うんですけども、もう

少しこのあたりが改善できればいいかなという意見はないですか。

（事務局）

私がここでみんなの意見を代表できるわけではとてもないんですけども、委員の皆様がおっしゃっていただいたこと大変身に染みておりまして、ありがたいなと思っております。いろいろと関わっていただいた事業の中で適切なタイミングでお返しできなかったこともあったことを今お見受けしましたので、その点は大変申し訳なかったなと思います。お心遣いいただいているように、もう少し多くの仲間と働けるとよいかというふうに思うところはございます。ありがとうございます。

（会長）

ありがとうございます。事務局からコメントありますか。

（事務局）

組織図のところで変更ないと申し上げたのですが、あれは定員数の話でありまして、実際に今、学芸の数は欠員が事実上2名出ている状況です。マイナス2のスタッフの中で、今事業を動かしているところで、学芸各員に負担が来ているというのは事実としてあります。今度4月1日に1人採用になりますし、来年度の途中の採用に向けて今準備をしているところなので、来年度の途中で定員が充足するということで、そこで一種の正常運転になっていくかと。するとあるいは、現状は正常の反対で異常になってしまうんですけども、そのような状況の中で動かしている。私の中ではいくつかの事業については止めているというものも実際にはあるんですけども、対外的には平常運転に見えているような形でやっています。

（会長）

保坂館長ありがとうございました。他にご意見等ございますでしょうか。

（委員）

細かいことですが、ギャラリーとポップアップギャラリーの稼働率がアップしている。これはひとえにホームページでスケジュールをきっちり載せていただいているので、観に行く側としてはありがたいことで、スケジュールを載せていただいていることで動員数も上がっていると思いますので、これはひとつ感謝するところであると思います。以上です。

（会長）

ありがとうございました。具体的なご指摘によって改善がなされた事例ということですね。そろそろ17時12分になります。少し超過しましたが、他にご意見がないようでしたらここで締めたいと思います。最後に一言だけ、私は会長ではありますが、美術館の人間でもあります。こうした委員会というのは外部の方のお声をいただく貴重な機会なんですけれども、一方で美術館の現場というのは非常に厳しい状況にあります。実際には身心を痛めて長期お休みをする学芸員があちこちの館に出ております。何事をするにも人の力、予算の力というのが必要です。それなしにあれをやったらいんじゃないか、これをやってくれとだけ言っていては、この場は決して実際の成果に結びつきません。そこのところを少し念頭に置いていただいて、実際に美術館を盛り上げていける委員会にしたい、皆様のご協力をお願いしたいと考えております。よろしく願いいたします。それでは

私からは以上でございます。皆様、様々な有益なご意見をいただきありがとうございました。これで事務局にマイクをお返しいたします。

（事務局）

会長、ありがとうございました。皆様に長時間にわたりご審議いただきましてありがとうございました。ただ一方で、委員からご指摘ありましたように十分な議論の時間を取れなかったことをお詫び申し上げます。家にお帰りになった後に、これ言いたかったんだけどというふうに思われる方もいらっしゃるかと思います。それについてはぜひ、お時間とっていただくことになりましたが、メール等々でご指摘いただければ、事業の方に反映していきたいと思いますので、もしよかったらご意見をお寄せいただければ幸いです。来年度は、秋頃に改めて整備基本計画の検討状況についてご審議いただきたく、再び皆様にお集まりいただく予定です。その際には、繰り返しますけれども、事前にもっと効率的に説明をさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。